

ゆざわジオパークに関する提言資料

産業建設常任委員会

美の郷ゆざわジオパーク構想

大地が創り育てた
美の郷 ゆざわ

(2) ジオパーク構想策定の目的

ジオパーク認定に向けた第一歩は、私たちが生活する地域の資源を見つめ直し、その資源の持つすばらしさに住民が気づき、「ここに住んでいて良かった」と思うことから始まります。

地域に住む人が自分の住む地域の良さを知り、そのことで生まれる郷土愛を育み、地域に対して誇りを持つことも目的のひとつです。

そして、地域が持つすばらしい資源を後世に残すために保護しながら、一方では教育や研究にも活用し、新たな観光といえる「ジオツーリズム」や「グリーンツーリズム」、「体験学習型観光」などを通じて、地域の産業や経済活動の活性化に活用し、湯沢市全体を活性化させることが最終的な目的になります。

その目的に向かって、地域住民、行政、民間団体、関係機関等、湯沢市が一丸となって進むための道標とするため、「ジオパーク構想」を策定します。

(3) 期待される効果

①まちづくり・人づくり

あまりにも身近な存在で、当たり前すぎて見過ごしていた地域の資源を改めて見つめなおし、その価値を知ることによって、住んでいる人々の全てが、その資源、ひいては地域全てに対して自信を持ち、地域外の人に対して自分の住んでいる地域を自慢できるようになります。地域のことを誇りに思い、自慢できるということは、自分が住む地域に愛情を持っていなければできません。この郷土愛を持っている人が多ければ多いほど、地域に活力がわき、それが元気なまちづくりと人づくりにつながっていきます。

②情報の発信・交流の拡大

世界あるいは日本ジオパークの認定を受けることで、湯沢市の知名度は格段に上がり、日本のみならず世界にも広くアピールできるようになります。

これに伴い、湯沢市を訪れる人の数が増えるとともに、一般的な観光客以外にも、地質や歴史など様々な分野を研究している人などが目的を持って訪れてくるようになります。今後は、新しい観光の形である「ジオツーリズム」を通じた滞在など、交流人口の拡大が期待されます。

③関連産業の活性化

「ジオツーリズム」など各種ツーリズムを通じての宿泊、滞在による観光産業はもちろんのこと、新たなツアー商品の開発や既存の観光商品の充実が図られるとともに、ジオに関連した新たな商品の開発や食への連携、ガイドの職業化など、湯沢市内の多様な産業が活性化することが期待されます。

(4) 構想実現の目標

本協議会は、世界ジオパーク認定登録への第一歩として、平成24年度の日本ジオパーク認定登録を目指して、各種事業を展開していきます。

日本ジオパーク認定後は、さらに地域資源の磨き上げや発掘、ガイド養成等を実施し、ジオパーク全体のレベルアップを行い、世界ジオパーク認定登録を目指して、活動を展開していきます。

第2次ゆざわジオパーク構想

いにしへの火山の恵み あつき雪

いかして築く歴史と暮らし

(1) 将来像と目的

① 将来像

ゆざわジオパークが目指す将来像は、世界中にゆざわジオパークの情報があふれ、様々な国や地域の方々と往来を伴った交流が盛んになっている姿である。

ジオパークの理念に沿った活動を活発に行い、ユネスコグローバルジオパークネットワークの中でお互いの地域の良さを認め合いながら切磋琢磨しあい、人的交流を深め、ユネスコグローバルジオパークのブランド力と地域資源を活用して、湯沢の生活・文化を飛躍的に向上させていく。そして住民みんなが地域に誇りを持ち、郷土愛に満ちた持続可能な地域社会が形成されることが「ジオパーク」の望まれる将来像である。

ゆざわジオパークもそのようなジオパークのひとつになっていることが望まれる。

ゆざわジオパークのキャッチコピーである「いにしへの火山の恵み あつき雪 いかして築く歴史と暮らし」は、まさにかつて活発に活動していた火山の恵みを上手に活用しながら、東北日本の日本海側特有の豪雪の中で歴史と生活や産業を築いてきた、ゆざわの特色を表す言葉である。

さらに、サブキャッチコピーの「銀で暮らさず、清水と共に歩み、地熱で未来を切り拓く」には、過去から現在、未来と地球からの恵みを人の営みに活かし、地球と共生する持続可能な地域社会を目指すことが表現されている。

これらの標語趣旨を誰もが理解し、世界でただひとつの「ゆざわ」として認めてもらう状態が理想である。

② 目的

ジオパーク活動の目指す目的は、次の2つである。

(i) 地域資源の再認識

私たちが生活する地域の資源を見つめ直し、その地域を持つすばらしさに住民が気づき、「ここに住んでいて良かった」と思う意識を持つこと、そして、地域に住む人が自分の住む地域の良さを知り、そのことで生まれる郷土愛を育み、地域に対して誇りを持つことが目的のひとつである。

(ii) 地域資源の保全と活用

地域を持つすばらしい資源を後世に残すために保護・保全をしながら、一方で教育・研究や地域経済に有効活用する。「ジオツーリズム」や「グリーンツーリズム」、「体験学習型観光」などの新たな観光、地域の産業や経済活動の活性化に活用し、湯沢市全体を元気にすることと持続可能なまちにすることが目的である。

なお、これらの目的は、現在国が強力に進めている「地方創生」とも大きく重なっている。ジオパーク活動を積極的に進めていくことは、地方創生実現への一歩になるものである。

(2) 活動の目標

本協議会は、目指す将来像の実現と目的達成に向けて次の具体的目標を掲げて活動を展開していくものとする。

- ① ゆざわジオパーク内において、ジオパークの趣旨と地域資源の活用を浸透させて、住民一人ひとりが自らの言葉でジオパークを語れるようにする。
- ② 住民全体の活動レベルの向上を図り、2020年までにユネスコグローバルジオパークの認定を得るものとする。
- ③ 近隣のジオパークや市町村との連携関係を強化し、より広域的なジオパーク活動を行うものとする。

第3次ゆざわジオパーク構想

いにしへの火山の恵み あつき雪

いかして築く歴史と暮らし

2 ゆざわジオパークの将来像

湯沢市民は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面、接触の活動が制限されてしまいました。そのため、ジオパークの理念とゆざわジオパーク構想・理念に沿った活動を再び活発化し、郷土愛を育み、地域資源の保全・活用に努め、持続可能な地域社会の形成を目指します。

また、ゆざわジオパークの活動を通して湯沢の誇りを次世代へ繋ぎ、日本・世界ジオパークネットワークのブランド力と地域資源を活用して、湯沢市の生活と文化を育み、様々な国や地域の人々との交流を深め、湯沢の人々が「湯沢は夢のある発展のまち」と感じるまちづくりを目指します。

3 ゆざわジオパーク活動の目的

次の3つの目的に沿って、ゆざわジオパークの目標を達成するための施策を確実に実行して、ゆざわジオパークの活動を持続的に行っていきます。

- (1) 湯沢が誇る地質系、生態系、歴史・文化系の地域資源（湯沢の隠れた宝）を再認識し、それらの保全と活用に努め、持続可能な「まちづくり」を目指します。
- (2) 湯沢市の特色である「地熱のまち」、「ゼロカーボン」、「デジタル変革（DX）」を前面に掲げて、未来志向型の活動を実施します。
- (3) ゆざわジオパーク活動を現在の行政主導型体制から市民主体の活動に転換し、運営資金調達の多面化や市民主導型運営体制に移行していきます。

4 ゆざわジオパークの目標

ゆざわジオパークの将来像と活動の目的を達成するために、下記の活動目標を設定します。

(1) 地域資源の価値の再認識と郷土愛の育成活動

地域資源を発掘し、その素晴らしさを再認識し、「湯沢に住んでいて良かった。」と思う誇りと郷土愛を育み、次世代につなげていきます。

- ・ 地域コミュニティとの会話を積極的に続けて、地域資源を掘り起こします。
- ・ 湯沢の素晴らしさに気づき、地域資源を活用する環境を創生します。
- ・ 次の世代が湯沢に住みつき、生活できる社会状況を作り出します。

(2) 地域資源の保全と活用

地域資源の保全と活用に努めて教育や地域社会、産業経済、学術研究等に利活用し、交流人口の増加と活力のある地域社会や経済活動を高めて活気ある「湯沢のまち」にしていきます。

(3) 持続可能な地域活動（SDGs）

地質系、生態系、歴史・文化系のサイトの保全と活用は、ユネスコの「SDGsの17の目標」達成に向けた活動の1つであり、ジオパーク活動を通じてSDGsの普及・啓発と実践に取り組みます。

ジオパーク活動の促進によって、次世代の人材を育成し、子どもたちや地域住民主導の活動に移行し、地域経済の活性化と地方創生の実現を目指し、持続可能な地域振興を図ります。

(4) 湯沢市の標語「地熱のまち“ゆざわ”」の活用

ゆざわジオパークの標語は、いずれも火山・地熱現象をイメージしており、ジオパーク活動を推進していく上で非常に重要な部分を占めています。熱水作用によって形成された特異な景観（川原毛地獄、大湯滝、小安峡大噴湯、大湯の噴湯など）、多様な源泉などの地域資源の視認性やストーリーを活用した実践に取り組みます。

(5) 市民主体によるゆざわジオパークの活性化

湯沢市ジオパーク推進協議会の人員の補強（歴史・文化専門員と地域おこし協力隊の採用）を図ります。

ジオパーク活動に対する市民への啓発活動を早急に実施し、市民参加型のジオパーク活動を目指します。

(6) 財政基盤の強化

ジオパーク活動を持続的に実施していくために、湯沢市ジオパーク推進協議会の財政基盤の強化を図ります。

(7) ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた活動

将来の湯沢を支える次世代に夢と可能性を持たせるために、ユネスコ世界ジオパークの認定に向けて段階的に施策を実行します。

第2次湯沢市総合振興計画（平成29年度～令和8年度）

基本構想

【まちを育てる基本目標】

第4節 あたたかな心と豊かな文化で人が集うまち

【基本目標を実現するための分野】

交流の活性化

国内外との交流の活性化により見識を広め、地域の価値を再発見することで郷土を愛する心を育てます。

第2次湯沢市総合振興計画（平成29年度～令和8年度）

後期基本計画（令和4年度～令和8年度）

交流の活性化に係る主な施策と内容

施策名	内 容
(1)都市農村交流による活性化	①多様な地域や団体との交流を通し、地域の魅力の再発見と見識の向上を図ります。
(2)ジオパークの普及促進	①調査研究や学習の成果を基に、この地域の良さを認識する活動を行い、郷土を愛する心を育みます。
	②ユネスコ世界ジオパークの認定に向け、海外先進ジオパークとの交流や世界ジオパークネットワーク活動への貢献等、認定水準を満たす活動を充実させることで、国内はもとより世界中からの来訪者の受入体制を構築します。
(3)国際交流による国際感覚の育成	① ジークブルク市との交流をはじめとして、国際感覚を持った人材を育てます。

第2次湯沢市総合振興計画（平成29年度～令和8年度）

実施計画（令和5年度～令和7年度）

交流の活性化に係る主な事業



提言に関連する事業概要

（単位：千円）

No.	事業名 〈章-節-施策No.〉	主な事業内容	事業費			所管課	特記事項 〈会計：款-項-目〉
			R5	R6	R7		
3	ジオパーク推進総務費 〈4-1-2〉	ゆざわジオパークは地域内の関係機関・団体から構成している「湯沢市ジオパーク推進協議会」が推進母体となっている。ジオパーク活動の推進を図るため、同協議会が行う各種活動を充実させるとともに、ジオパークネットワークへの貢献も併せて実施する。 (ジオパーク推進協議会負担金、研修旅費)	20,959	20,959	20,959	観光・ジオパーク推進課	〈一般：7-1-4〉

令和5年度 湯沢市 市民満足度調査 報告書

●ジオパークの普及促進と調査・研究の支援

		R5	R4	R3	R2	R1
満足度	加重平均順位	8/32	11/31	11/31	10/31	5/31
重要度	加重平均順位	31/32	31/31	30/31	31/31	30/31

分母は調査対象施策数

前期基本計画の重要業績評価指標（KPI）の進捗状況

第4章 あたたかな心と豊かな文化で人が集うまち

	設定時 (H27)	実績値 (R2)	目標値 (R3)	達成率	備考
第1節 交流の活性化					
農業による産地交流参加者数	64人	376人	200人	188%	5年累計
ジオガイド利用者数	1,156人	1,426人	2,500人	57%	
市民応援隊『かだり隊』の登録事業所総数	30事業所	43事業所	50事業所	86%	
ジークブルク市派遣者数（中学生の総計）	89人	112人	125人	90%	

後期基本計画の重要業績評価指標（KPI）

第1節 交流の活性化

指標名	現状 (R2)	目標 (R8)	担当課
農業による産地交流参加者数	376人	850人	農林課
ジオガイド利用者数	1,426人	2,500人	観光・ジオパーク推進課
市民応援隊『ゆざわジオパークかだり隊』の登録事業者総数	43事業所	50事業所	観光・ジオパーク推進課
「農山村交流及び国際交流の活性化」に対する市民満足度	15.3%	20.0%	農林課 観光・ジオパーク推進課 総務課

第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 未来を育み、共に輝く地域を目指して ～



2020年3月
 秋田県湯沢市

目次

第2章 第1期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組について	4
1. 2015年度から2018年度（4箇年）における取組実績について	4
【戦略1】「民」の力とゆざわの強みの融合による新規就労創出と経済活性化	4
【戦略2】ターゲットマーケティングと段階的アプローチによる移住・定住推進	8
【戦略3】結婚・出産・子育てを「まるごと！」祝福・支援	11
【戦略4】地域資源を活用した「自分ごとの誇れるまちづくり」の実践	14
2. 「第1期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の振り返り	17

【戦略4】地域資源を活用した「自分ごとの誇れるまちづくり」の実践

（1）戦略4の基本的方向性

○ 「地熱」「ジオパーク」「音楽のまち」など、“ゆざわ”を特徴づける地域資源を活かしたまちづくりを充実させることで、郷土愛を醸成するとともに、“ゆざわ”の個性を確立し、知名度・ブランドイメージの向上を目指す。

（2）戦略4の数値目標

数値目標	現状		単位	年度 累計	実績値				目標値 R1	達成率 H30/R1
	年度	基準値			H27	H28	H29	H30		
1 湯沢市に誇りや愛着を感じる市民の割合	-	-	%	単年度	-	74.8	74.2	73.1	85.0	86%

（3）数値目標の達成状況等

数値目標	達成状況等
1 湯沢市に誇りや愛着を感じる市民の割合	地域を題材としたふるさと教育やしごと博覧会の開催などにより、地域の魅力や郷土への愛着の醸成に努めたが、目標は達成できていない。

(4) 戦略4を構成するチャレンジ・パッケージとKPI

チャレンジ・パッケージ (CP)	重要業績 評価指標 (KPI)	現状		単位	年度 累計	実績値				目標値	達成率
		年度	基準値			H27	H28	H29	H30	R1	H30/R1
CP1 地熱とジオの恵み、 ゆざわの文化を活 かしたまちづくり ～オンリーワンからナン バーワンへ～	① ジオガイド数	H26	33	人	単年度	48	13	4	5	60 (5年累計)	117%
				累計	48	61	65	70			
	② ジオガイド利用者数	H26	686	人	単年度	1,156	1,011	1,492	1,037	2,500	41%
	③ 音楽のまち関連イ ベントへの参加者 数	H26	950	人	単年度	876	813	21,952	13,644	12,000	114%

(5) チャレンジ・パッケージの推進状況等

チャレンジ・パッケージ (CP)	推進状況等
CP1 地熱とジオの恵み、ゆざわの文化を活かしたまちづくり ～オンリーワンからナンバーワンへ～	<p>ジオパークの振興について、ガイド養成講座やガイド認定検定などを実施し、県内初の小学生ジオガイドを含め、目標を上回る70人をジオガイドに認定した。しかし、観光パンフレット等にジオガイドの利用案内を掲載して周知を図ったが、ジオガイド利用者数の目標数は達成できていない。</p> <p>音楽のまちの推進について、サマーミュージックフェスティバルや月イチコンサートの実施、ホームページやSNSによる周知などにより、市民の音楽に対する関心向上を図り、関連イベントへの参加者数は目標を上回っている。</p>

イ 戦略4の成果や今後の方向性等

戦略4の地域資源を活用したまちづくりの実践について、各チャレンジ・パッケージにおける取組により一定の成果は見られるが、数値目標は達成できていない。また、各チャレンジ・パッケージに設定したKPIについて、目標を達成したKPIは戦略4全体の50%にとどまっている。

文化を活かしたまちづくりについて、これまでのジオパーク推進に係る取組を検証し、ゆざわジオパークの普及促進や地熱のまちゆざわの推進を図りつつ、世界ジオパーク認定に向けて、市民全体の機運の醸成を図る。また、本市の優れた芸術や文化活動に親しむ環境を整備するとともに、人の交流も含めて文化の振興を図る。

ゆざわジオパーク教育旅行来訪者

(湯沢市ジオパーク推進協議会 各年度事業実績報告書より)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
小学校	0	0	0	0	0	0	4	180	2	67
中学校	1	38	1	28	1	45	16	775	3	119
高等学校	0	0	0	0	0	0	3	230	1	147
大学	0	0	0	0	0	0	2	99	0	0
合計	1	38	1	28	1	45	25	1,284	6	333



下北ジオパーク推進計画

Shimokita Geopark Promotion Plan

海と生きる「まさかり」の大地

～本州最北の地に守り継がれる文化と信仰～

下北ジオパーク推進協議会

2021年4月9日 改定



参照：下北ジオパーク | 公式ホームページ
<https://shimokita-geopark.com/>

(2) 物産の振興

【現状と課題】

- 認定商品制度が整備されたものの、商品数が不十分
- 地域内外における認定商品の認知度の不足

【今後の展開】

- 認定商品制度の継続的な運用
- パンフレット作成や広報活動推進による販売促進
- 地域内外におけるイベントでの活用

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
認定商品制度	制度創設	運用						
広報活動推進による販売促進								
地域内外におけるイベントでの活用								

【指標（KPI）又は目指すべき姿】 ※（ ）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
認定商品数	25商品 (27商品)	30商品 (33商品)	50商品
イベントの開催数(累計)			5件

(3) サステイナブルツーリズムの推進

【現状と課題】

- ターゲットに応じたモデルコース及び旅行商品の不足
- 観光客の来訪目的、ニーズ等調査の未実施
- 観光関係者との連携不足

【今後の展開】

- （一社）しもきたTABIあしすとをはじめとする観光業者との連携強化
- 観光業者と観光関係者を巻き込んだ取り組み
- モニターツアー及び観光客モニタリングによるニーズの調査
- 教育旅行やコンセプトツアーの造成

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
観光業者との連携強化								
観光業者および観光関係者を巻き込んだ取り組み					情報収集	連携		
モニターツアー及び観光客モニタリングによるニーズの調査					検証		検証	累計
教育旅行やコンセプトツアーの造成								

【指標（KPI）又は目指すべき姿】 ※（ ）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
ツアー商品数	7商品 (4商品)	10商品 (4商品)	15商品
宿泊者数	176,700人 (244,807人)	193,700人 (未)	200,000人

※宿泊者数は、（一社）しもきたTABIあしすと自己的目标値を参考とした。

産業建設常任委員会の取組

産業建設常任委員会での調査等の経過

年月日	会議名	内 容
令和4年10月27日	市民との意見交換会	・出張!!なんでも意見交換会の開催 (ゆざわジオパークガイドの会の皆さんと「地域資源の魅力と情報発信の方向性について」をテーマに、意見交換を実施)
令和4年12月10日	市民との意見交換会	・議員としゃべろうマチトーク「みんなと観光カフェ」の開催 (「観光」をテーマに市民が語れる魅力ある湯沢について意見交換を実施)
令和5年4月27日	議会改革推進研修会 (産業建設常任委員会)	・政策提言に向けた課題等の整理
令和5年5月26日	委員協議会	・政策提言事項について検討
令和5年6月15日	委員協議会	・政策提言事項について検討
令和5年6月22日	議会改革推進研修会 (産業建設常任委員会)	・政策提言事項の検討
令和5年7月4日	委員協議会	・政策提言事項の決定について

産業建設常任委員会の取組

年月日	会議名	内 容
令和5年 7月12日～14日	行政視察	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道小樽市「第二次小樽観光基本計画について」 ・北海道三笠市「三笠ジオパークについて」 ・北海道千歳市「DMOについて」
令和5年7月20日	市民との意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・出張!!なんでも意見交換会の開催 (北都銀行湯沢支店の明日の湯沢を考える会の皆さんと「GX」をテーマに、意見交換を実施)
令和5年8月2日	議会改革推進研修会 (産業建設常任委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・提言内容について検討
令和5年8月2日	委員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・提言内容について検討
令和5年8月25日	委員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・政策提言「ゆざわジオパークに関する提言(案)・提言資料」について協議
令和5年8月30日	産業建設常任委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆざわジオパークに関する提言(案)」の決定 ・議会改革推進会議への議題提案書の提出